

第4学年 道徳科授業実践



校時	学年・組	主題名	教材名	授業者	授業会場
第6校時	第4学年1組	周りをよく見て考えるきまり	雨のバス停留所で	井坂 恵子	教室

〈指導者〉 さいたま市教育委員会 指導1課

指導主事 松下 元彦 先生

令和2年2月27日(木)

さいたま市立芝川小学校

1 主題名 周りをよく見て考えるきまり 内容項目 C規則の尊重

2 教材名 「雨のバス停留所で」 (出典 教育出版)

3 本時の学習

(1) ねらい

停留所に向かって走り出したよし子の行動についてどう思うかを考える話合いを通して、きまりの意義を理解し、みんなのことや周りの状況を考えて行動しようとする判断力を育てる。

(2) 展開

段階	○学習活動と主な発問	・出された児童の意見	・指導上の留意点○評価	時間
導入	○きまりについてのアンケート結果を提示してきまりについて考える	・きまりの大切さは分かっているのに、なぜ守れないのだろう。	・ねらいについて方向付けをして、本時で考えるテーマを掲げる。(自己理解)	3
	テーマ きまりがない場面では、どのように考えて行動することが大切なのだろう			
展開 前 段	○教材の概要を知る ○教材「雨のバス停留所で」の読み聞かせを聞く ○感想を書く	○登場人物 よし子 お母さん バスを待つ人々 ○条件・状況 お母さんとお婆さんの家へ行く。雨風が強まる中、停留所から少し離れた軒下でバスを待っている。バスが到着したときのよし子の行動でお母さんの顔色が一変する。		5
	○心に残ったところや話し合いたいところを発表し合い、柱立てをする ○話し合う	・よし子が走り出したところ ・母に肩をつかまれたところ ・バスに乗る列に並んでいたところ・バスの中で横で考えたところ	・主人公の気持ちになって話を聞くように促す。 ・児童の心に残ったところを大事にしながら柱につなげる。	7
	補助発問 バスに向かって走り出したときどんな気持ちでいたでしょう。	・寒い冷たい ・早くバスに来てほしい ・早く乗りたい ・くて嫌だ。 ・早くバスに乗りたい。 ・イライラする。	・雨の音を聞かせたりバスが見えた場면을掲示することで、思わず走り出したよし子の心情に共感しやすくする。(人間理解)	3
	1、どんな気持ちでバスを待っているでしょう。			
	○自分の考えを書く ○3人で話し合う ○全体で話し合う	・誰も並んでいなかったのだから、早く停留所に着いた人がバスに一番に乗ってもいい。	○大切な価値を見つけるために、友達と意見を交流することができたか。(他者理解)	1 5
	② 停留所に向かって走り出したよし子の行動を、どう思いますか。			

	<p>順番ってあるの？</p> <p>どんな場合がだめなの？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・順番を抜かすのはよくない。 ・時と場合による。普段はタバコ屋は停留所じゃないから走って行ってもいいけど、雨が降っているこの場合は、先に待っていた人がいたからダメ。かわいそう。 		
<p>展開後段</p>	<p>○アンケート結果を振り返りながら、今日のテーマの答えを考え、自分と関連させて感じたことや考えたことを書く。</p> <p>きまりがあってもなくても、大切なことって何だろう？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人の気持ちを考えて行動しないといけない。 ・自分だけの気持ちで行動してしまうことがあるので、周りを見て行動したい。 ・人に嫌な気持ちをさせたり迷惑をかけたくない。 ・きまりのあるなしに関係なく、周りを見て他人の気持ちを考えて行動することが大切。 	<p>○多様な価値観に触れながら、自分の考えを深めることができたか。</p> <p>(価値理解)</p> 	<p>1 0</p>
<p>終末</p>	<p>○宮澤章二の詩を読む</p> 	<p>『「心」は、「行動」に表れるということだね。』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きまりがある場面でもない場面でも、思いやりの心をもって行動することが大事なんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいとする価値のよさについて印象付ける。 	<p>2</p>

4 成果と課題

話し合いの仕方

○3人座席での話し合いは、少人数なので、児童にとっては飾らず構えることなく発言することができた。

発問

○自我関与させるには、主人公の気持ちを追っていく発問が一般的だが、主人公の行動についてどう思うかという発問で、児童自身に客観的に考えをもたせ、主体的に考えることができた。一方

で、指導案検討の結果、本授業では「よしこのことをどう思う？」という開かれた質問に変更したが、プレ授業での発問「よい、悪い、どちらともいえない」の三択発問の方が多様な意見が出ていた。結論を出してから、それに続く理由を考える方が児童は考えやすいことが分かった。

▲開かれた質問は、児童の思考も開かれてしまい、意見をまとめるのに時間がかかり、頭の回転が速く、意見をまとめ発表した児童の意見に偏っていく傾向があった。

授業形態のパターン化

○ポートフォリオノートを年間通じて使用することで、書くことに慣れるだけでなく、授業のパターン化ができ、経験の浅い先生にとっては授業の型が分かりやすく、子どもにとっても見通しが持てるのでスムーズに思考することができ、タイムマネジメントができていた。

導入とテーマ・終末との関連のさせ方

○導入で問題意識を高め、関心をもたせていた。終末で再度アンケートの回答を見直すことによって、自分事として捉えて考えながら書くことができた。

▲導入でアンケート「どんな時に守れないの？ どうして守れないの？」を提示した後、「じゃあ、きまりがない場面だともっと守れないかもしれないよね？」と言ってからテーマを出した方が、テーマについて考える必要感が持たせられた。

▲「なぜきまりがあるのか」を後段で再度考え書かせると、導入のアンケート結果からの変容を見ることができる。「おこられるから守る。」と答えた児童の変容など見られると良かった。

その他

▲廊下歩行は、決められているきまりだから、給食の並び方や量の取り方など、きまりがない場面で想定させたアンケート、導入提示の方が良かったのではないかな。

▲切り返しが弱かった。「よしこは悪くない。」と答えた男児の意見に同調するような意見を述べて、反対意見をもっと出させても良かった。

▲終末の詩は、「人への心遣い思いやり」の内容項目に寄っていた。きまりの存在価値は、「他人のため」だけではないので、更にきまりの大切さ、必要感を感じさせられるものが良かったのではないかな。

5 板書

